

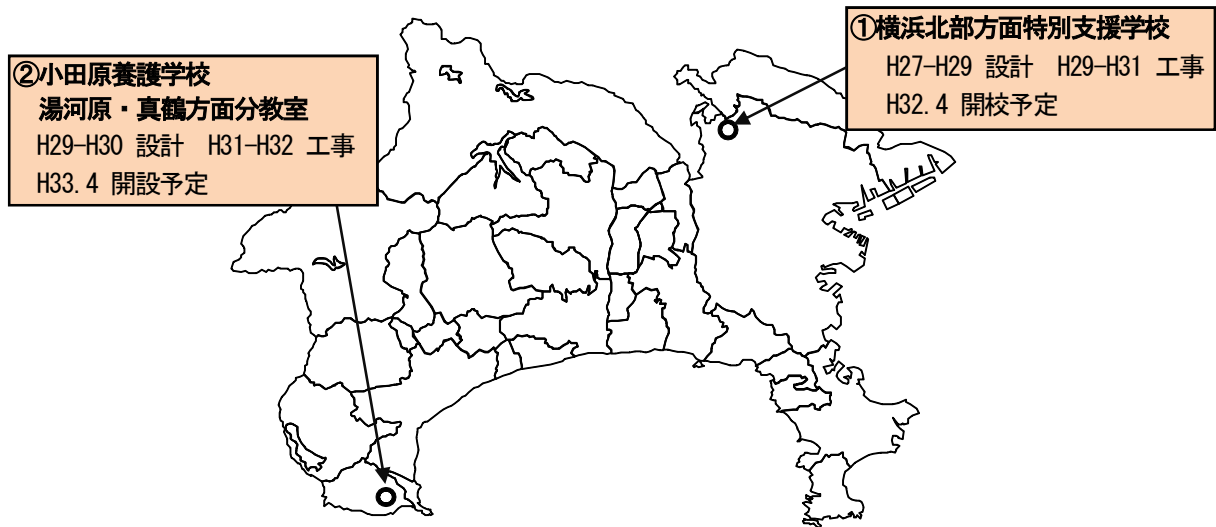
## 主要施策 9 特別支援教育の充実

予算額 4,484,365千円  
(前年度 4,113,813千円)

### 【基本的な考え方】

すべての子どもができるだけ同じ場でともに学びともに育つ、インクルーシブ教育を推進する中で、障がいの重度・重複化、多様化への対応や、地域的な課題への対応を図るため、特別支援学校の整備を推進する。

併せて、県立特別支援学校に在籍する児童・生徒の通学のため、スクールバスの運行を行うとともに、県立特別支援学校で学ぶ児童・生徒の学習理解の促進及び自立と社会参加を進めるため、児童・生徒がいつでも情報機器を使用できる環境（実質的に一人に1台）等を整備する。



②小田原養護学校  
湯河原・真鶴方面分教室  
H29-H30 設計 H31-H32 工事  
H33.4 開設予定

①横浜北部方面特別支援学校  
H27-H29 設計 H29-H31 工事  
H32.4 開校予定

### 1 横浜北部方面特別支援学校の整備

2,836,533千円

- 旧県立中里学園跡地に県立特別支援学校を新設する。
- 施設概要

整備予定地	横浜市青葉区みたけ台26-18
面積	敷地面積：約16,450㎡ 延床面積：約11,100㎡
設置予定学部	小学部、中学部及び高等部
児童生徒数（予定）	約200名（肢体不自由教育部門40名、知的障がい教育部門160名）

- 事業スケジュール

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
← 調査設計 →	← 基本・実施設計等 →	☆中里学園移転	← 新築工事 →		◎4月開校予定
← 敷地測量 →	← 除却設計 →	← 除却工事 →	← 敷地整理 →		

## 2 小田原養護学校湯河原・真鶴方面分教室の整備

173,167千円

- 西湘地域の特別支援学校の地域的課題（湯河原・真鶴地域に在住する児童・生徒の通学負担）に対応するため、旧湯河原中学校跡地に小田原養護学校湯河原・真鶴方面分教室を整備する。

### ○ 施設概要

整備予定地	足柄下郡湯河原町中央2丁目21番地3（旧湯河原中学校跡地）		
敷地面積	約2,200㎡（旧湯河原中学校跡地の一部）	延床面積	約2,000㎡（新築校舎）

### ○ 事業スケジュール

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
← 調査設計 →	← 基本・実施設計 →		← 新築工事 →	◎4月開設予定
← 測量調査 →				

## ㊦ 3 スクールバスの運行

1,351,116千円

- 県立特別支援学校に在籍する児童・生徒の通学のため、スクールバスの運行を行う。
- 既存スクールバス110台のうち20台の更新を行うとともに、6台の増車（新規開校分）を行う。

既存	継続分	90台	中原養護学校（7台）ほか83台
	更新分	20台	平塚養護学校（3台）ほか17台
増車（新規開校）分		6台	横浜北部方面特別支援学校（6台）
計		116台	



## ㊦ 4 県立特別支援学校における情報教育の推進

121,977千円

- 県立特別支援学校（全28校）において、児童・生徒がいつでも情報機器を使用できる環境（実質的に一人に1台）を維持するため、581台の情報機器を更新する。
- 横浜南養護学校及び秦野養護学校において、入院中の児童・生徒の教育機会を保障するため、タブレット等のICT機器を活用し、教室と病棟等をインターネットでつなぎ、リアルタイムで授業配信・質疑応答等の双方向のやりとりを行う授業を実施する。

## ㊦ 5 分身ロボットの導入

1,572千円

- 分身ロボットとは、カメラ、マイク、スピーカーを搭載し、ネット経由での遠隔操作により、音声だけでなく、カメラで周囲を確認したり、ロボットの動きで感情表現を伝えたりと、より主体的なコミュニケーションを図ることができるロボットである。
- 横浜南養護学校及び秦野養護学校において、入院中や自宅療養中の児童・生徒が、教室でのホームルームや授業に参加したり、修学旅行や遠足等の行事を体験するために活用する。

